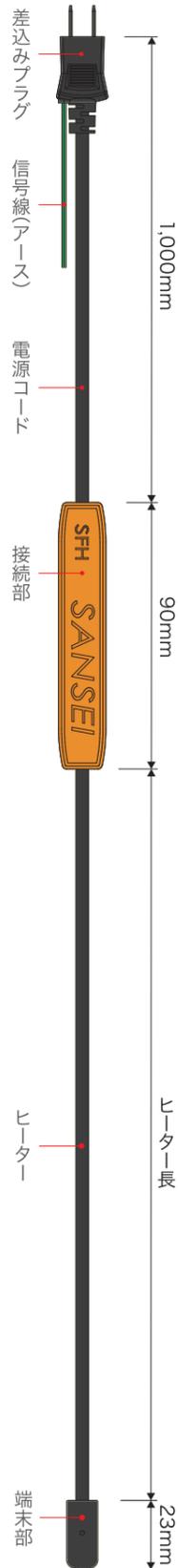


# スマートフィットヒーター

鋼管・樹脂管どちらでも使用できる万能タイプ

鋼管・樹脂管用

製品図



- 特徴**
- ▶自己温度制御特性により異常加熱の心配がなく、重ね巻き施工も可能です。
  - ▶ヒーター専用ガイド管付架橋ポリエチレン管・ポリブデン管に最適です。
  - ▶1本のヒーターで、鋼管・樹脂管の複合配管への施工が可能です。

仕様

品番	ヒーター長 (m)	消費電力 (W)	価格 (円)	C/S入数
SFH-0.5	0.5	6.5	4,400	30
SFH-1	1	13	5,900	
SFH-1.5	1.5	19.5	7,400	
SFH-2	2	26	8,800	
SFH-2.5	2.5	32.5	10,300	
SFH-3	3	39	11,700	20
SFH-3.5	3.5	45.5	13,200	
SFH-4	4	52	14,600	
SFH-5	5	65	17,500	10
SFH-6	6	78	20,300	
SFH-8	8	104	26,000	
SFH-10	10	130	31,700	
SFH-15※	15	195	45,800	
SFH-20※	20	260	59,900	5
SFH-25※	25	325	74,100	
SFH-30※	30	390	88,200	

※\*印: 受注生産のため、納期のご確認をお願いします。  
※消費電力値は、配管温度20°Cの値となります。

早見表

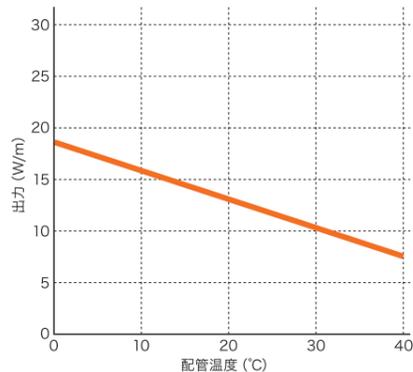
保温材	配管径 最低気温	15A (1/2)	20A (3/4)	25A (1)	32A (1¼)	40A (1½)	50A (2)
		10mm	ストレー施工 (1.0)	1.2	1.4	1.7	1.8
保温テープ	-10°C	1.4	1.5	1.8	2.1	2.4	2.9
	-15°C	1.6	1.9	2.3	2.8	3.2	3.9
	-20°C	ストレー施工 (1.0)	1.2	1.3	1.5	1.7	1.9
20mm	-10°C	ストレー施工 (1.0)	1.1	1.2	1.4	1.5	1.6
	-15°C	ストレー施工 (1.0)	1.1	1.2	1.4	1.5	1.6
	-20°C	ストレー施工 (1.0)	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5

※ストレー施工以外の数字が表示されている配管へは、上記表の巻き比率の通りに巻き付け施工してください。

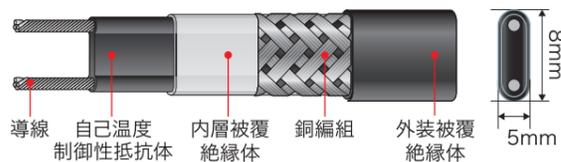
早見表の見方

- ①施工する配管径を選択します。
  - ②使用する保温材の厚みを選択します。
  - ③選択した保温材で施工場所の最低気温を選択します。
  - ④配管径と最低気温の交点が施工方法です。
- ※最低気温は施工場所の真冬の最低気温

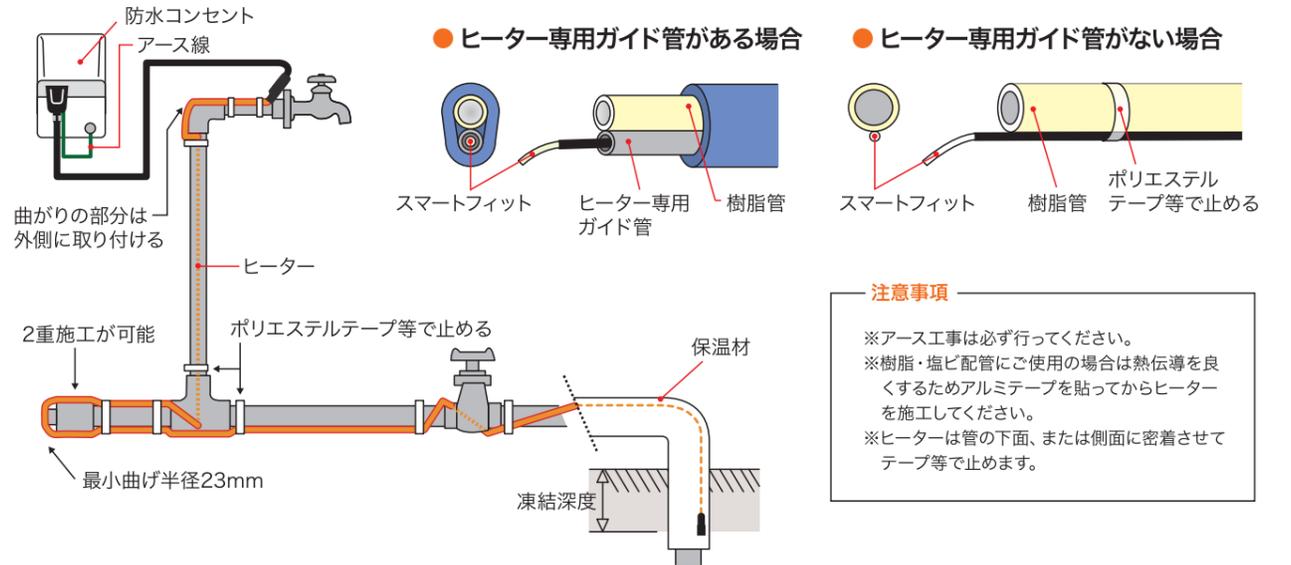
出力特性



構造

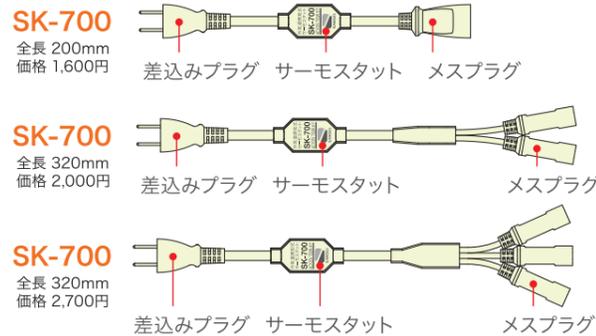


施工例



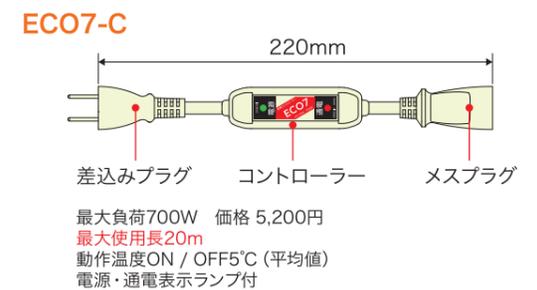
オプション

サーモスタット



最大負荷700W  
最大使用長30m  
動作温度ON5°C / OFF13°C (平均値)

エコセブンコントローラー



最大負荷700W 価格 5,200円  
最大使用長20m  
動作温度ON / OFF5°C (平均値)  
電源・通電表示ランプ付

注意点

警告

- ▶濡れた手で、差込みプラグの抜き差しをしない  
感電の原因となります。
- ▶製品の改造や修理をしない  
感電、火災の原因となります。
- ▶定格電圧以外では使用しない  
故障、火災の原因となります。
- ▶差込みプラグおよび製品に雨水が掛からないようにする  
故障、漏電、火災の原因となります。
- ▶配管内の水を抜いた場合は、差込みプラグをコンセントから抜く  
そのまま使用すると故障、漏電、火災の原因となります。
- ▶本来の用途以外、地中埋設、水中使用などで使用しない  
故障、感電、火災の原因となります。
- ▶ヒーター線を強く引っ張ったり押し込んだりしない  
断線、発火の原因となります。

注意

- ▶直接雨水の当たる場所、強磁界や振動のある場所には設置しない  
故障、漏電、火災の原因となります。
- ▶ボイラーなど、熱源の近くに設置しない  
故障、異常加熱の原因となります。
- ▶製品を強く引っ張ったり押し込んだりしない  
故障の原因となります。
- ▶製品にひび割れ、変色が発生した場合は使用しない  
感電、火災の原因となります。
- ▶自然災害 (水害、落雷など) の被害に遭った場合は、  
製品の使用を中止してください
- ▶凍結シーズン前に製品の差込みプラグをコンセントに差し込んでください  
本製品は凍結防止を目的としており、  
凍結した配管を解氷するだけの発熱量はありません。
- ▶施工時にヒーター線を傷めないようにクギ・刃物に注意してください  
感電・発火の原因となります。